

# 地域包括ケア「見える化」 システムを活用した分析

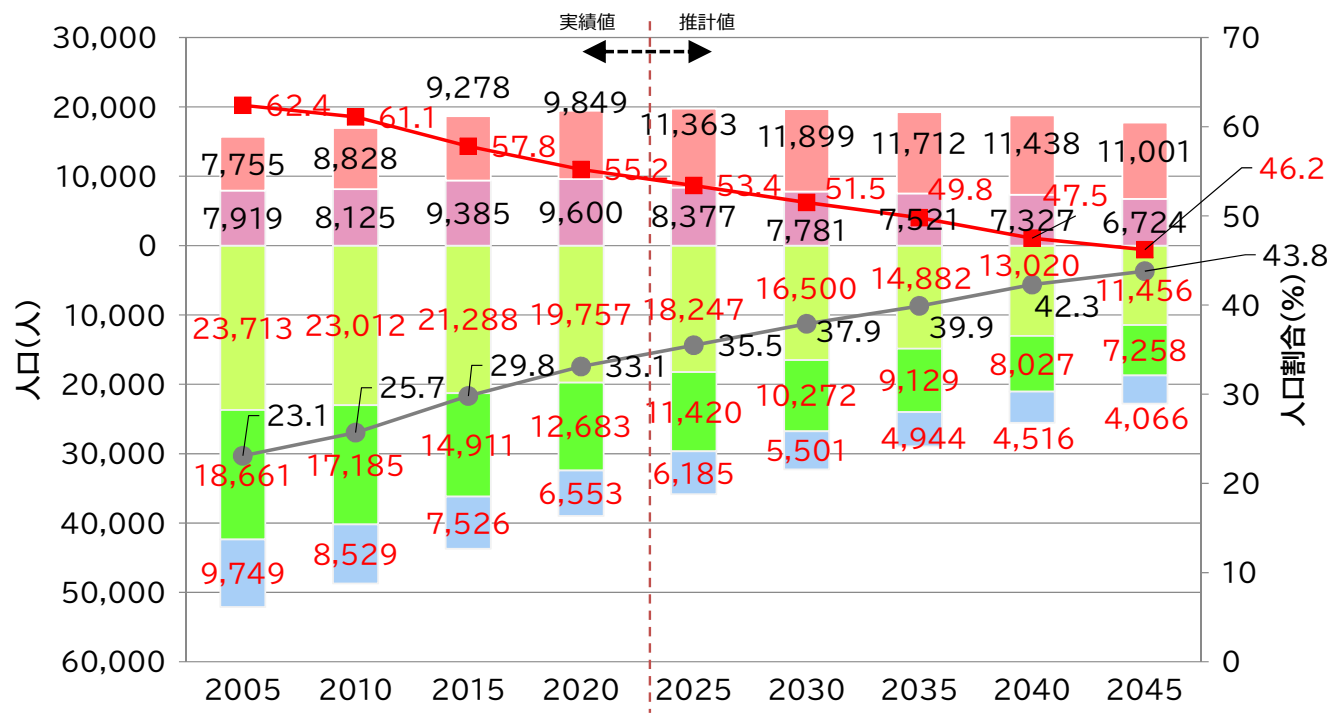
R5.9 紀の川市 高齢介護課 介護保険班

## 紀の川市の高齢者の現状について

	人口	第1号被保険者数 (65歳以上)	第1号被保険者の いる世帯数
平成31年3月末	62,384人	19,920人	13,910世帯
令和2年3月末	61,502人	20,005人	13,937世帯
令和3年3月末	60,878人	20,148人	14,012世帯
令和4年3月末	60,305人	20,242人	14,064世帯
令和5年3月末	59,803人	20,135人	14,024世帯

住民基本台帳、介護保険事業報告年報より

# 紀の川市の人口の推移



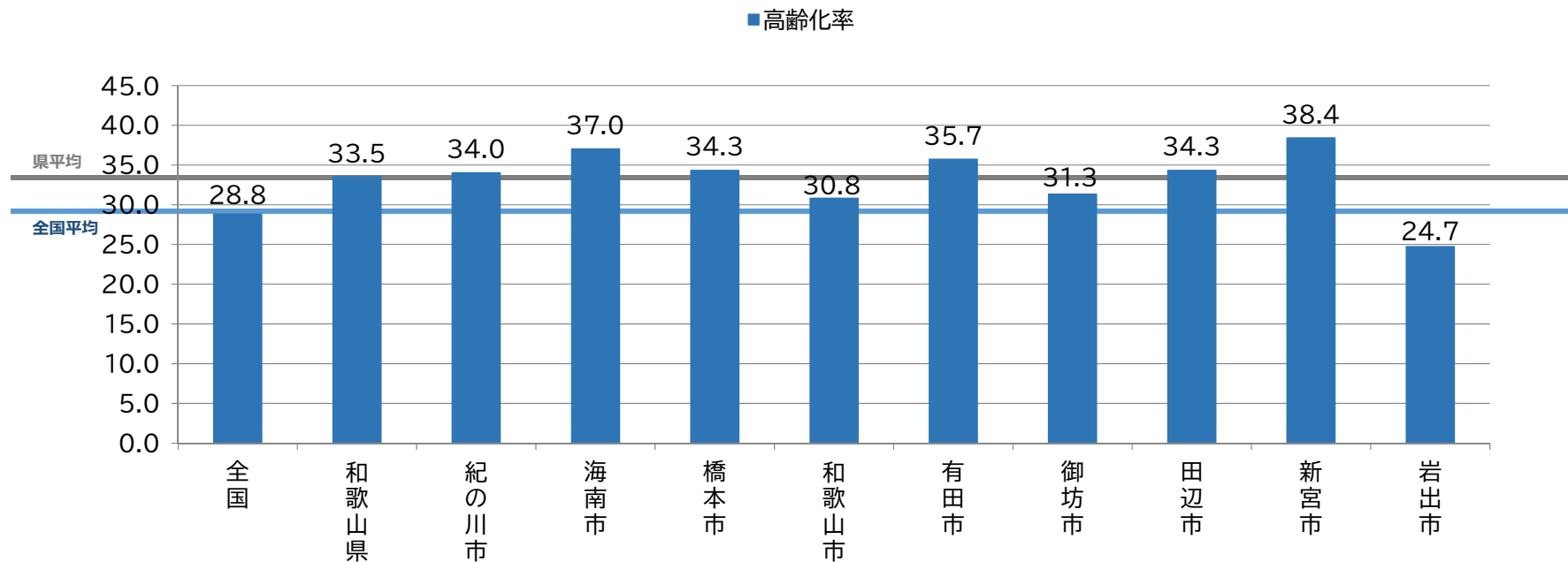
紀の川市の高齢化率の降順		
(2015年10月時点)		
和歌山県内	24番目	30保険者
全国	877番目	1,570保険者
(2025年の推計値)		
和歌山県内	23番目	30保険者
全国	844番目	1,512保険者
(2040年の推計値)		
和歌山県内	20番目	30保険者
全国	759番目	1,512保険者

- 75歳以上
- 65歳～75歳未満
- 15歳未満
- 15歳～40歳未満
- 40歳～65歳未満
- 高齢化率
- 生産年齢人口割合

(出典) 2000年～2020年まで：総務省「国勢調査」  
 2025年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

令和12(2030)年には、第1号被保険者数(65歳以上)が第2号被保険者数(40～65歳未満)を上回るとみられています。これまでの、高齢者人口の増加が続いていましたが、今後は生産年齢人口の減少が急激に進み、介護保険制度を持続可能なものとするのがより一層厳しくなっていくことが予想されます。

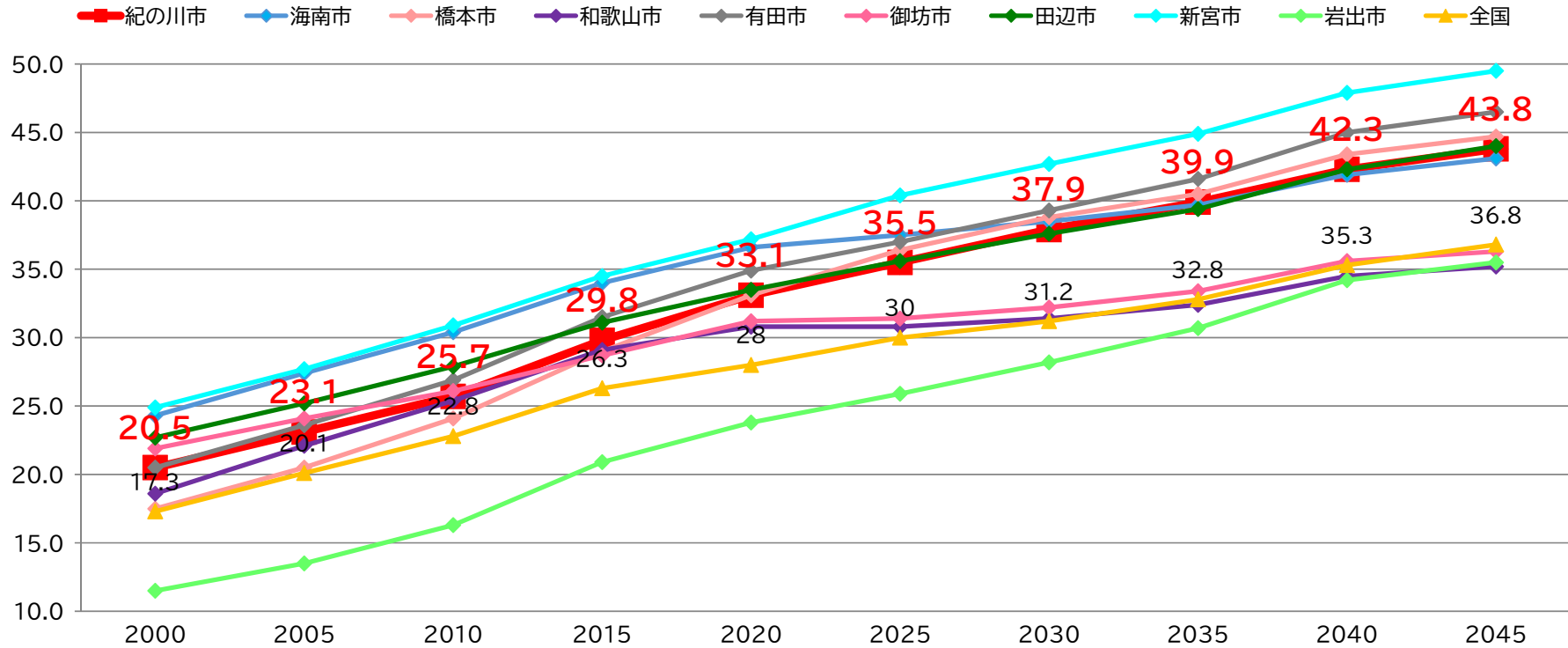
## 県内9市の高齢化率の比較（令和4年・2022年）



（出典）総務省「国勢調査」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

和歌山県の高齢化率は全国平均と比較して高くなっています。和歌山県の平均を若干上回っています。紀の川市は9市で6番目の高さとなっており、**3人に1人が65歳以上**となっています。

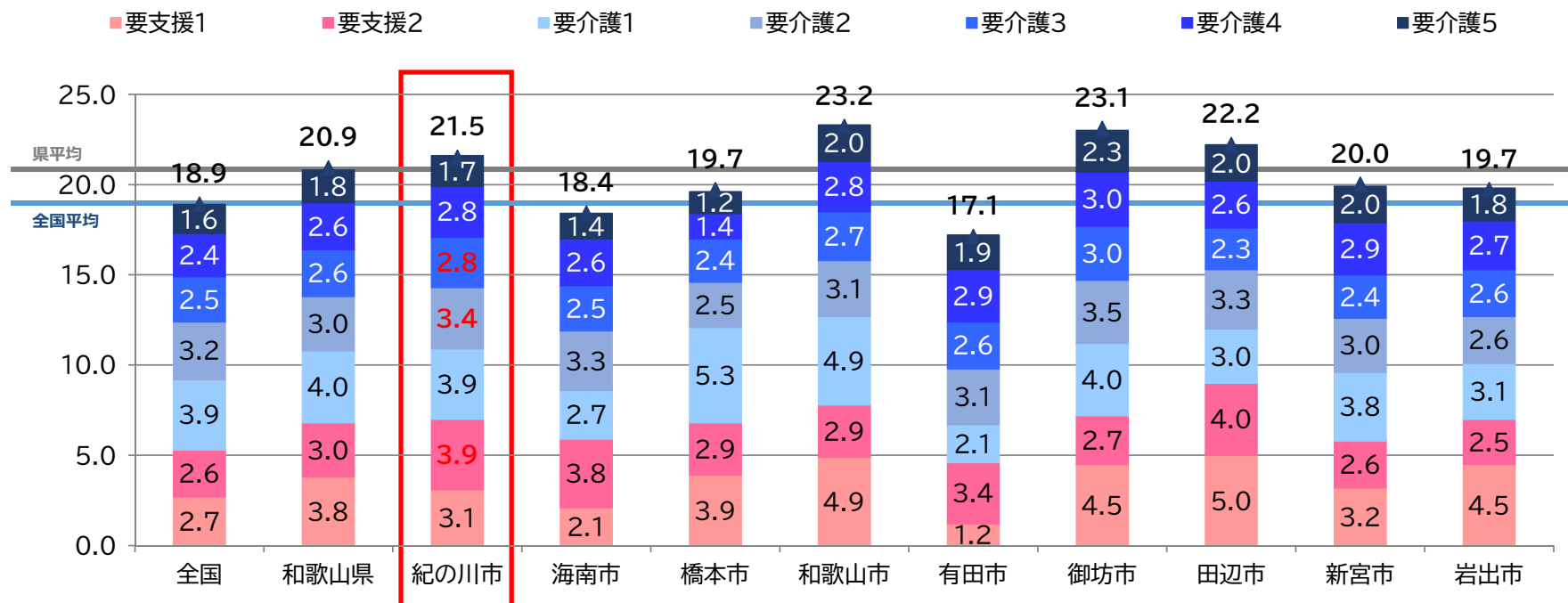
# 県内9市の高齢化率の推移と予測（2000年から2045年）



(出典) 総務省「国勢調査」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

和歌山県内9市の経年での比較です。介護保険制度が始まった平成12(2000)年に紀の川市は5番目の高さでした。紀の川市は、令和17(2045)年まで毎年0.5ポイントずつ上昇していく予想となっています。令和2(2020)年以降、上昇率の低下が見られる市と引き続き上昇を続ける市と二分化されることが予想されています。

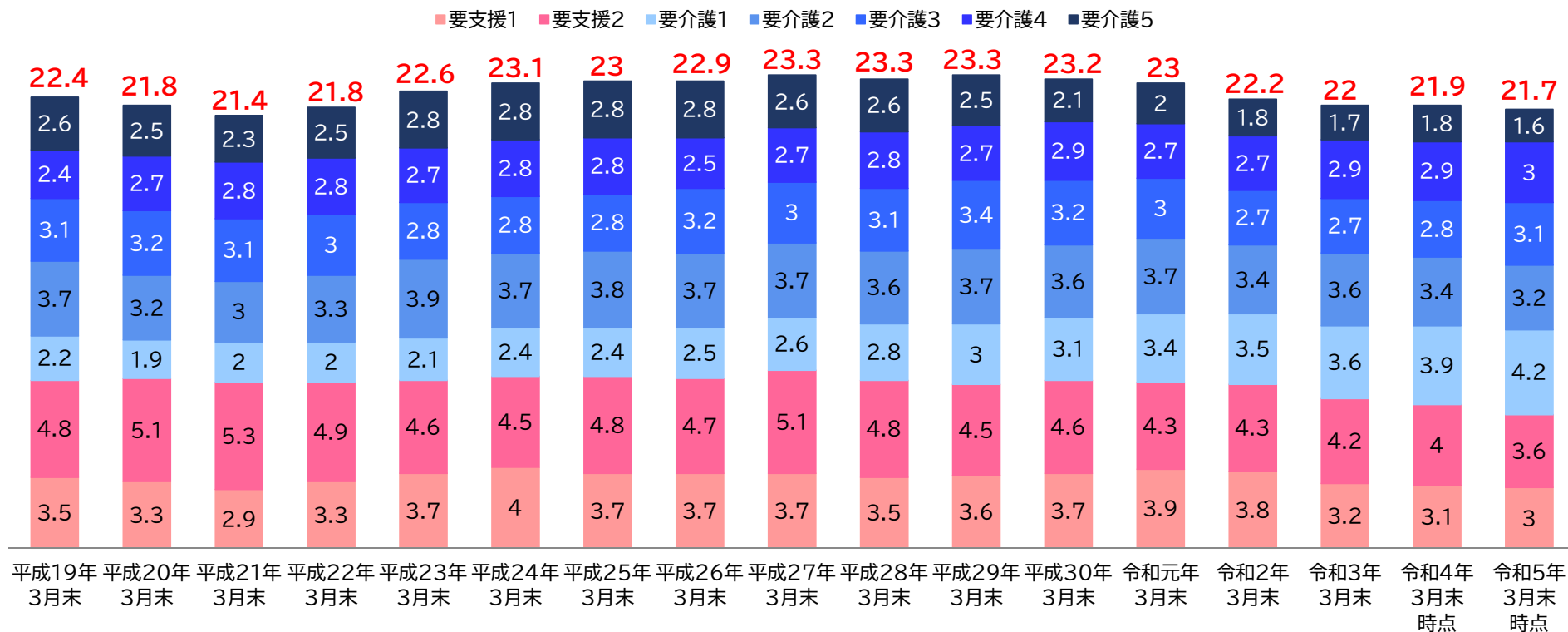
## 県内9市の調整済認定率の比較（令和3年・2021年）



（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

調整済認定率とは、認定率に大きな影響を及ぼす「第1号被保険者の性・年齢別人口構成」の影響を除外した認定率を言います。県内9市と比較すると紀の川市の認定率は高くなっています。また、要支援2、要介護2・3で他市より高い傾向となっています。

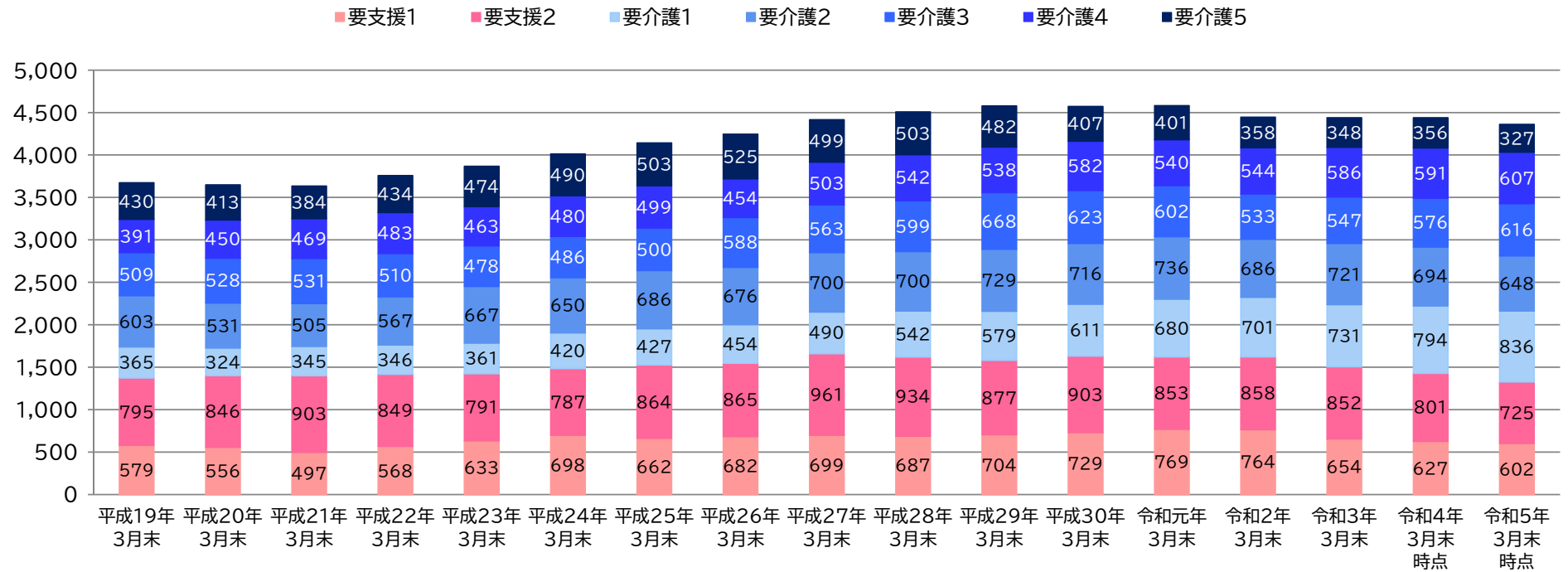
# 紀の川市の認定率の推移（平成19年度末から令和4年度末）



(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4,5年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

紀の川市における認定率はここ数年、低下傾向にありますが、介護度で見ると、要支援1・2が減少し、介護1が増加しています。

# 紀の川市の認定者の推移（平成19年度末から令和4年度末）

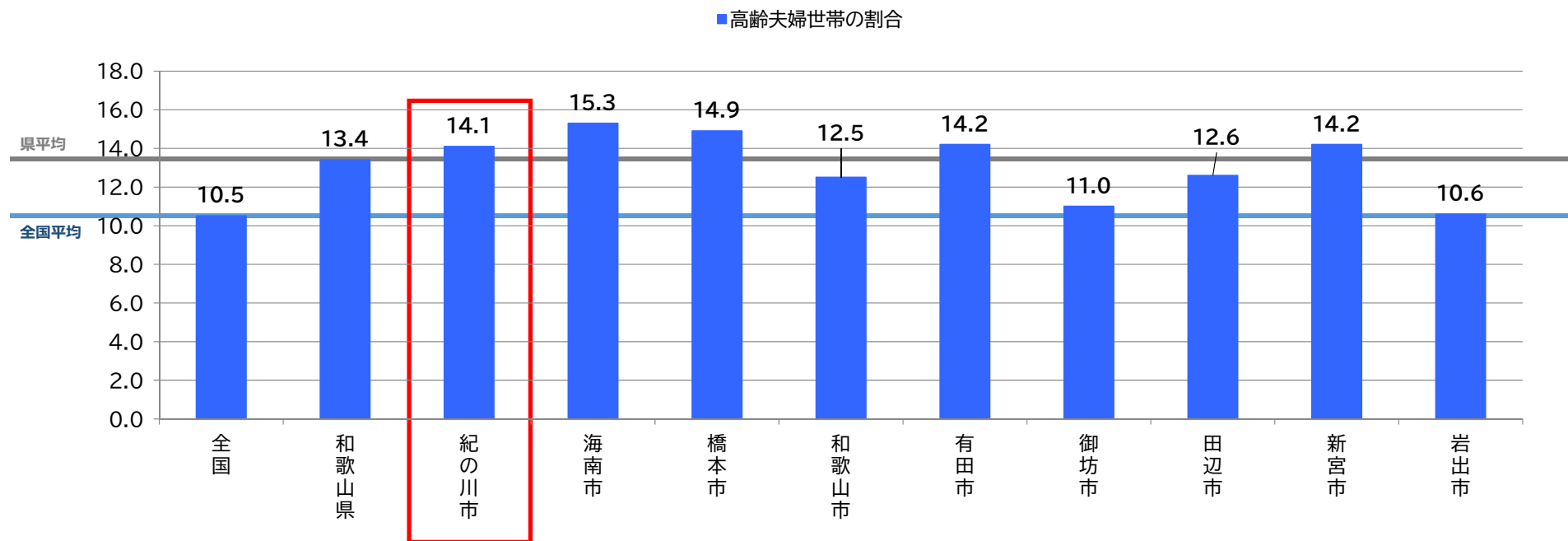


(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4,5年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

**認定率と同じく、紀の川市における介護認定者数は低下傾向にありますが、介護度で見ると、要支援1・2が減少し、介護1が増加しています。**



## 県内9市の高齢夫婦世帯割合の比較（令和2年・2020年）

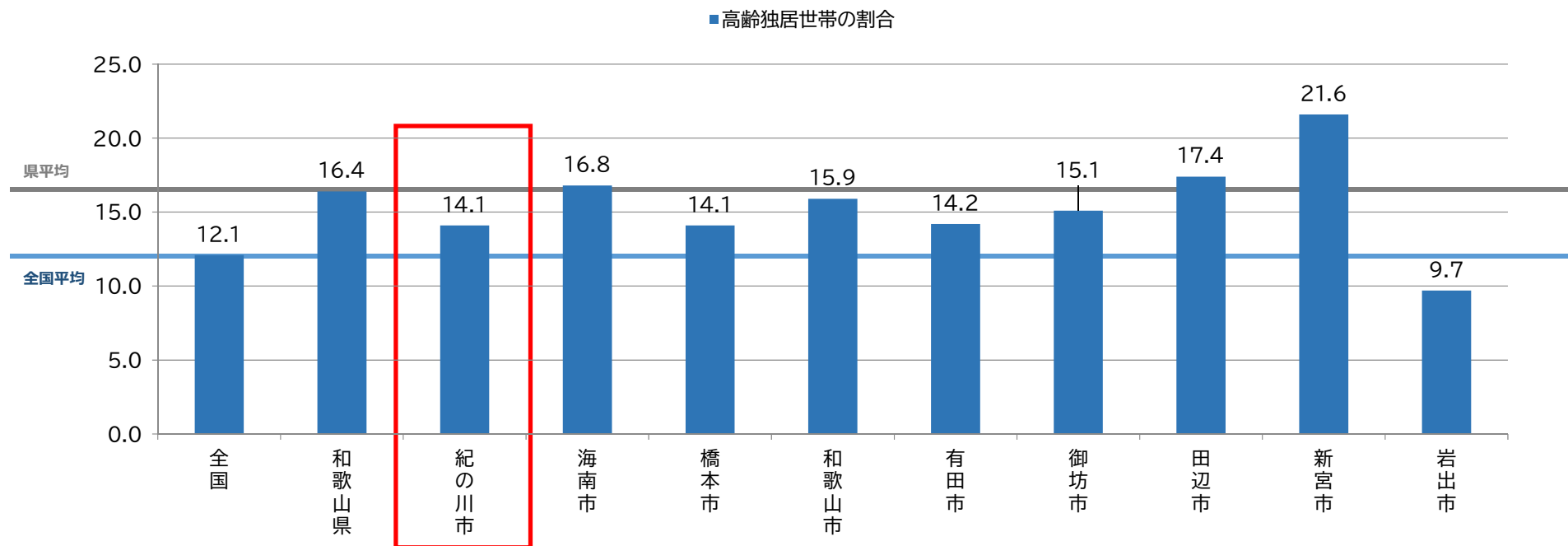


(出典) 総務省「国勢調査」

紀の川市の高齢夫婦世帯割合は、**全国平均・県平均より高くなっています。**

高齢夫婦世帯数は増加し続けているため、今後、その割合が増加する予想です。高齢夫婦間で、その配偶者の介護をしているケース（老老介護）もあり、精神的にも身体的にも負担が大きく、共倒れのリスクが増加します。

## 県内9市の高齢独居世帯割合の比較（令和2年・2020年）



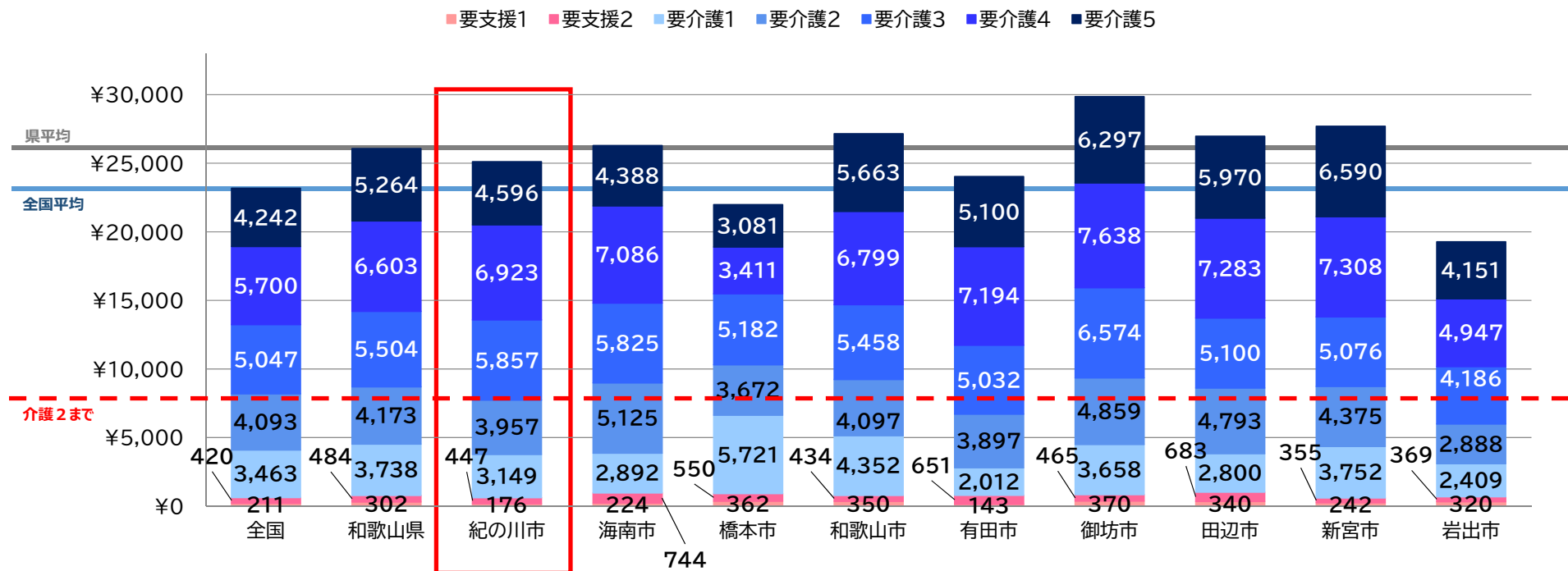
（出典）総務省「国勢調査」

紀の川市の高齢者独居世帯割合は、全国平均より高いですが、県平均よりは低くなっています。

高齢者独居世帯数は増加し続けているため、今後、その割合は増加する予想です。

一人暮らしの高齢者は、地域社会とのつながりが希薄になりがちであり、孤立化・孤独化が進行する恐れがあります。

# 県内9市における第1号被保険者1人あたりの給付月額額の比較 (要介護度別)(令和4年・2022年)

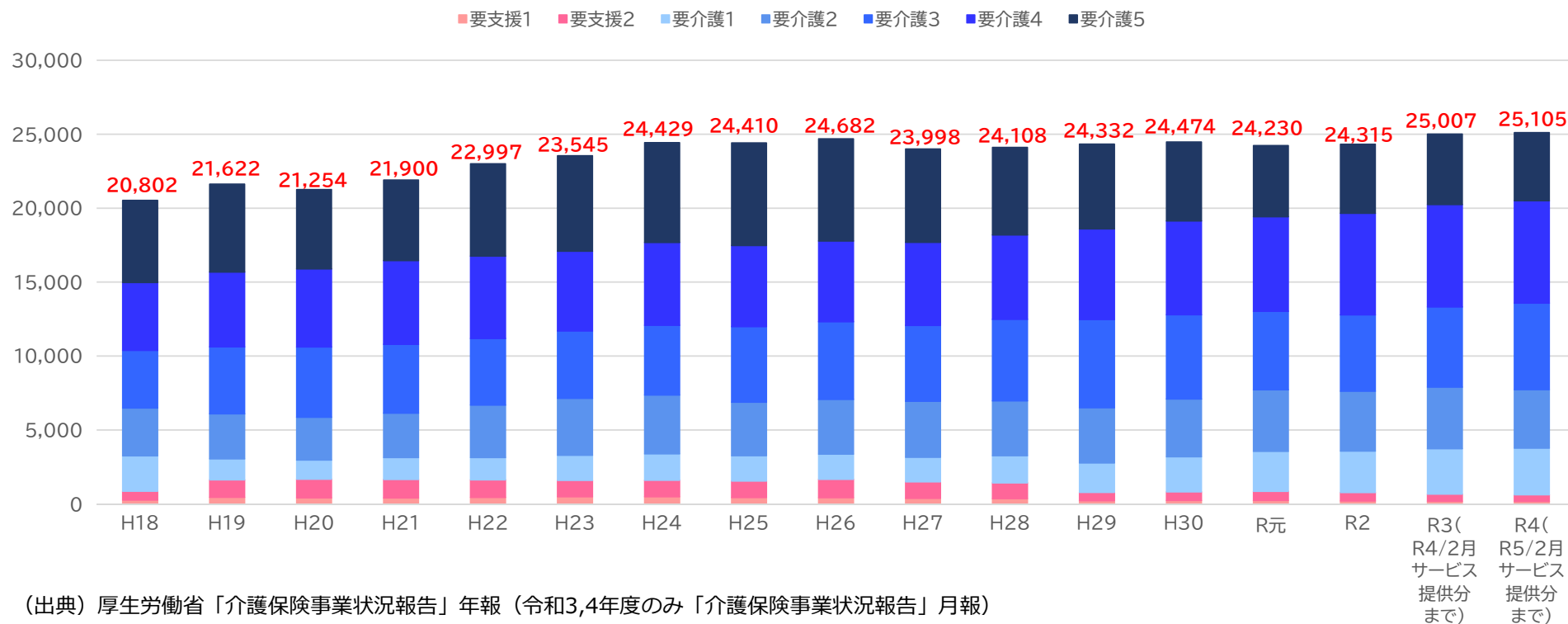


(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3,4,5年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)

一人あたりの給付月額額は、全国平均よりは高く、県平均より低くなっています。

**要介護2までの額だけみると、全国平均、県平均よりも低くなっています。**要介護3以上で利用することができる施設の数が増えていることが要因と思われます。

# 紀の川市の第1号被保険者1人あたり給付月額推移 (要介護度別)(平成19年度末から令和4年度末)



紀の川市における1人あたりの給付月額は、制度改正のあった平成27年度に一度下がりました。平成29年4月から総合事業に積極的に取り組み、平成30年以降減少傾向が続いていましたが、令和3年度から再び上昇しています。平成18年度と令和4年度で比較すると約1.2倍になっています。